【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

①言葉の特徴や使い方に関する事項	良好な結果であった
②情報の扱い方に関する事項	良好な結果であった
③我が国の言語文化に関する事項	良好な結果であった
④話すこと・聞くこと	良好な結果であった
⑤書くこと	概ね良好な結果であった
⑥読むこと	概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	良好な結果であった
②短答式	良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問は、問2ー(2)「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し活用する」内容
- ・もっとも正答率の低かった設問は、問2三ア「学年別漢字配当表に示されている漢字(きょうぎ)を文の中で正しく使うことができるかをみる」内容
- ・無解答率の高かった設問は、問3三「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」内容

分析

1 傾向

- ・正答率は全ての領域において全国平均を上回っており、無解答率も低くなっている。

2 成果

- ・「話すこと・聞くこと」「情報の扱い方」の領域では、正答率が全国平均を大きく上回っている。調べたことを発信したり、根拠をもとに考えを伝えたりする実践の成果として、目的や意図に応じて表現を工夫する力が向上していると考えられる。

3 課題

- ・物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめたものを記述する問題では、無解答率が全国平均を上回っている。条件を整理して考えをまとめ、制限字数に合わせて書くことに課題が見られる。
- ・国語辞典や漢字辞典を活用し、熟語や言葉の意味を調べる学習を行い、漢字を文の中で正しく使ったり、語彙力や表現力を高めたりする必要がある。

4 授業での重点的な取組み

- ・学校図書館を活用した言語活動の充実。
- ・対話を通して自分の考えを表現する力の育成。

○●算数●○

(領域ごと)

①数と計算	良好な結果であった
②図形	良好な結果であった
③変化と関係	良好な結果であった
④データの活用	良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	良好な結果であった
②短答式	良好な結果であった
③記述式	良好な結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問は、問1(2)「数量の関係を、□を用いた式に表す」内容
- ・もっとも正答率の低かった設問は、問4(3)「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」内容
- ・もっとも無解答率の高かった設問は、問5(3)「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する」内容

分析

1 傾向

- ・正答率は全ての領域において全国平均を上回っており、無解答率も低くなっている。

2 成果

- ・全ての領域で正答率が全国平均を大きく上回っていることから、日頃の積み重ねにより基礎学力が定着していると考えられる。
- ・特に記述式問題の正答率が全国平均を大きく上回っており、目的に応じて必要な情報を読み取ったり、問題を解決する過程やその結果を図や式、言葉などで表現したりする力が培われてきていると考えられる。

3 課題

- ・速さの意味理解に関する問題では、無解答率が全国平均より高くなっている。目的に応じて大きさを比べたり、表現したりする方法を日常生活に生かすことに課題が見られる。速さの意味に基づいて、問題場面と比べて求めた速さが妥当か判断するなど活用問題に取り組む必要がある。

4 授業での重点的な取組み

- ・問題解決学習を通して、自分の考えを図や表、数や式と対応させながら表現する活動場面の設定。
- ・多様な考え方を比較し、練り上げて規則性を見出したり、概念を生み出したりする授業の工夫。
- ・他教科の授業においてもグラフを見て分析したり、必要な資料として活用したりするなど学んだことを生かす場面の設定。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

正答率は国語、算数ともに全国平均を上回っており、良好な結果が見られる。特に国語の正答率が向上している。また、無解答率は昨年より上昇したものの減少傾向が続いており、問題に粘り強く取り組む力や考えを表現しようとする意欲が向上していると考えられる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

国語、算数ともに学力高位層の割合が高くなっており、学力中位層の割合が低くなっていることから、全体的に学力は向上していると考えられる。一方で、学力低位層やEP層の割合がやや増えているため、今後も基礎学力定着に向けた取り組みを継続していく必要がある。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

1 基礎学力の定着

① ほづみっ子タイムやモジュール学習の充実

- ・四則計算や漢字、ローマ字の定着、言葉の力を高めるために計画的、系統的に学習活動を進める。
- ・モジュールの英語学習では、「書く」だけではなく、チャンツなどでリズムに親しみながら学ぶ活動を進める。

② 読書活動の充実

- ・毎週木曜日の朝の読書タイムや年2回の読書週間の取り組みをさらに充実させる。本を読む機会を確実にとることで、「本を読む」習慣をつけさせ、文法や語彙力、表現力などを高めていく。
- ・スクールサポーターやボランティアの方による読み聞かせを行い、本への興味関心を高める。

2 言語活動の充実

① 学校図書館を活用した授業づくり

- ・スクールサポーターと連携し、さまざまな教科学習において、課題解決のために図書館を活用する機会を増やし、資料から必要な情報を取り出し、目的を意識してまとめる力を高める。
- ・同じ作者やテーマなど関連する図書の並行読書を進め、対話を通して読みを深めたり、広げたりする経験を積み重ねていく。ブックトラックを教室の前に置き、疑問に思ったことをすぐに調べたり、興味をもったりすることができる読書環境を整えていく。

② 主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくり

- ・単元を通して言語活動を位置付け、目的や必然性のある読みができるような授業づくりを行う。言語活動のゴールとなるモデル提示や交流ポイントを明確にするためのモデル動画を示し、学習の過程やゴールの見通しがもてるようにする。
- ・自他の考えを多面的、多角的に捉え、柔軟な考えをもてるように学習の場を工夫し、授業者は対話を通して学びを深められるようコーディネートしていく。
- ・学習した内容を自分の言葉で表現する「振り返り」の時間を設定し、主体的な学びを促す。

3 授業方法・内容の工夫と改善

① 自分の考えを表現する力を高める授業づくり

- ・日記や短作文など、日常的に「書く」取組みを取り入れる。学年ごとに、学習内容や発達段階に応じたテーマや題材を設定し、継続して取り組む。文章を読み返す習慣をつけ、自分で推敲できる力をつけていく。
- ・話型や文型例を提示し、伝える力、書く力など自分の考えをさまざまな表現方法でまとめる力を高めていく。低学年では、吹き出しを使って物語の登場人物の気持ちを想像させ、対話を通して語彙を増やしていく。

② ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

- ・教室の学習環境整備（全教室の前面をすっきりさせる、児童机の高さを個に応じて調節するなど）や指導の工夫（視覚支援・学習の流れがわかる板書など）、学びの協働化（ペアやグループ活動など）を行い、授業のユニバーサルデザイン化を推進していく。

4 学校全体としての取組み

- ・研究授業や研修、教員相互の授業参観を行い、授業力向上を図る。「解いてみたい」「考えてみたい」「伝えたい」と児童自ら学習課題を見出し、主体的に学ぼうとする展開の工夫を行い、授業改善を進めていく。
- ・家庭学習を重点的に取り組む期間として「生活チェック週間」を毎学期実施し、保護者や子どもたちを啓発していく。